

IBM WebSphere Adapters



IBM WebSphere Adapters のインストール

バージョン 6.0

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、15 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Adapters、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディファイケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Adapters
Installing IBM WebSphere Adapters
Version 6.0

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.3

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

IBM WebSphere Adapters のインストール	1
グラフィカル・インストールの実行	1
セットアップ・ランチパッドの使用法	2
インストーラーの使用法	3
サイレント・インストールの実行	4
WebSphere アダプターのアンインストール	5
アンインストーラーの使用法	6
サイレントでのアンインストール	6
インストールのトラブルシューティング	7
インストール・ログ・ファイル	7
IBM Support Assistant の使用法	7
IBM ソフトウェア・サポートへの連絡	8
アダプターのセットアップと配置	10
ユーザー補助	12
特記事項	15
プログラミング・インターフェース情報	17
商標	17
索引	19

IBM WebSphere Adapters のインストール

グラフィカル・ウィザードまたはスクリプトを使用したサイレントな手順を使用して、WebSphere® アダプターをインストールまたはアンインストールします。

アダプターを使用するには、以下の手順を実行する必要があります。

1. **アダプターをインストールします。** 本書では、アダプターのインストール方法を説明します。
2. **RAR ファイルを構成し、エンタープライズ・アプリケーション・アーカイブ (EAR) ファイルに再パッケージします。** 本書では、手順の概要を説明します。ステップバイステップの手順については、ご使用のアダプターのユーザーズ・ガイドを参照してください。
3. **WebSphere Process Server for Multiplatforms に EAR ファイルを配置して、このファイルを構成します。** ステップバイステップの手順については、ご使用のアダプターのユーザーズ・ガイドを参照してください。

グラフィカル・インストールの実行

それぞれの WebSphere アダプターには、リソース・アダプター・アーカイブ (RAR) およびその他のアダプター成果物をご使用のシステム上に置くための固有のインストーラーがあります。アダプターをインストールする前に、IBM® WebSphere Adapters バージョン 6.0 製品 CD を利用できる状態にしておく必要があります。CD には、セットアップ・ランチパッドおよびインストーラーが含まれています。

インストーラーがサポートするオペレーティング・システムのリストを以下に示します。

注: WebSphere アダプターは、以下のオペレーティング・システムが稼働するマシンにのみインストールできます。WebSphere Integration Developer がこのシステムにインストールされていない場合、WebSphere アダプター RAR ファイルおよびその他のアダプター成果物を、Integration Developer がインストールされているシステムに転送して、インストール後タスクを実行することができます。

- Windows® 2003
 - Standard Edition
 - Enterprise Edition
- Windows 2000 Professional SP6
- Linux®
 - Red Hat Enterprise AS/ES/WS 3.0
 - SuSE Enterprise Server 9.0
 - SuSE Standard Server 9.0

セットアップ・ランチパッドの使用法

セットアップ・ランチパッドを使用すると、資料、リリース情報、およびソフトウェア前提条件にアクセスすることができます。セットアップ・ランチパッドから、インストールを開始できます。

1. セットアップ・ランチパッドを始動します。

製品 CD を Windows システムの CD ROM ドライブに挿入すると、セットアップ・ランチパッドが自動的に始動します。以下の実行可能ファイルを使用して、Windows および Linux システムでセットアップ・ランチパッドを始動することもできます。

- launchpad_win.exe
- launchpad_linux.bin

インストーラー・ファイルが置かれたディレクトリーから、Java コマンドを使用することもできます。

Windows `java -cp lib¥images.jar;lib¥nls.jar;launchpad.jar run`

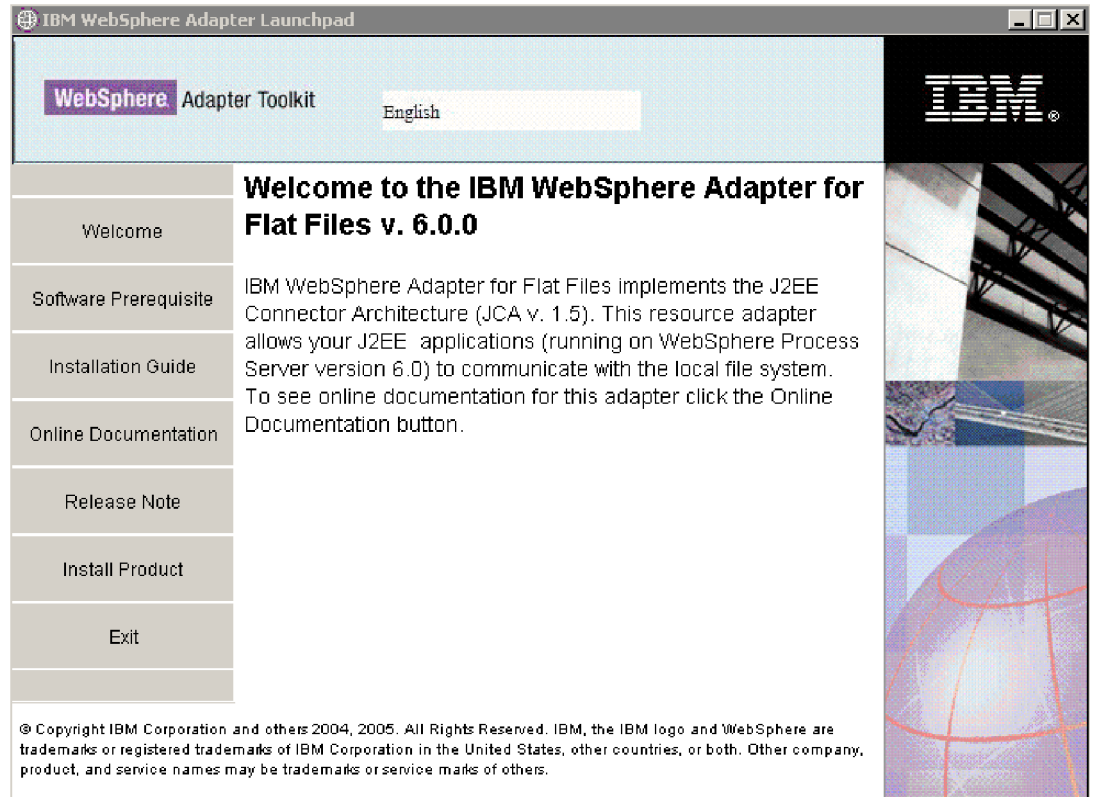
UNIX/Linux `java -cp lib/images.jar:lib/nls.jar:launchpad.jar run`

これにより、言語選択ダイアログが表示されます。

2. 言語リストからセットアップ・ランチパッドの言語を選択し、「了解」をクリックします。

注: Linux システムでは、セットアップ・ランチパッドでサポートされる Web ブラウザーは、Mozilla、Netscape、および Konquerer のみです。

以下の画面捕そくに示すように、セットアップ・ランチパッドから、ソフトウェア前提条件を確認したり、オンラインでリリース情報やインストール、製品に関連した資料を取得したり、WebSphere アダプター・インストーラーを始動したりすることができます。



WebSphere Adapter for Flat Files のセットアップ・ランチパッド

- 「ソフトウェア前提条件」をクリックして、ソフトウェア前提条件を表示します。

注: セットアップ・ランチパッドは、必要なアダプター前提条件を表示しますが、ご使用のシステム上に前提条件があるかどうかをチェックしません。

- 「インストール・ガイド」をクリックして、本書にアクセスします。
- 「オンライン文書」をクリックして、IBM WebSphere アダプター・インフォメーション・センターにアクセスします。
- 「リリース情報」をクリックして、リリース情報にアクセスします。
- 「製品のインストール」をクリックして、WebSphere アダプターのグラフィカル・インストールを開始します。

インストーラーの使用方法

インストーラーは、WebSphere アダプターのリソース・アダプター・アーカイブ (RAR) ファイルおよびその他のアダプター成果物を、ご使用のシステム上に置きますが、アダプターの配置や構成は行いません。

1. セットアップ・ランチパッドから、「製品のインストール」をクリックします。
あるいは、以下の表に示すオペレーティング・システムに応じた実行可能ファイルを実行して、インストーラーを起動します。

プラットフォームごとのインストーラー実行可能ファイル

プラットフォーム	実行可能ファイル
Windows	setupwin32.exe

プラットフォームごとのインストーラー実行可能ファイル

プラットフォーム	実行可能ファイル
Linux	setupLinux.bin

2. 言語リストからインストーラーの言語を選択して、「**了解**」をクリックします。

注: このステップでは、インストールするアダプターの言語ではなく、インストーラーの表示に使用する言語を選択します。

3. インストールするアダプターを確認して、「**次へ**」をクリックします。
4. 使用条件の内容を確認し、「**同意します (I accept)**」を選択し「**次へ**」をクリックして、使用条件を受諾します。

使用条件に同意しない場合、インストーラーにはその場合のオプションについて説明したウィンドウが表示されます。ユーザーは、製品をインストールするには、使用条件の条項に同意し、受諾することをインストーラーに示す必要があります。

5. デフォルトのインストール・パスを受け入れるか、新しいインストール・パスを指定して、「**次へ**」をクリックします。
6. 要約情報を確認して「**次へ**」をクリックします。

要約には、製品名とバージョン、インストール・ロケーション、インストールするコンポーネント、およびインストールに必要なディスク・スペースが表示されます。

7. インストーラーにより、RAR ファイル、アンインストーラー、およびその他のアダプター成果物がインストールされ、続いて確認ウィンドウが表示されます。「**終了**」をクリックします。

関連資料

7 ページの『インストールのトラブルシューティング』

IBM WebSphere Adapter のインストール中に問題が起こった場合、さまざまなリソースを利用することができます。このリソースの中には、インストール・ログ・ファイル、エラー・メッセージや情報メッセージ、IBM Support Assistant などがあり、さらには IBM ソフトウェア・サポートに問い合わせることもできます。

サイレント・インストールの実行

複数のシステムに WebSphere アダプターをインストールする場合は、インストーラーを実行するのではなく、サイレント・インストールを実行することによって、時間を節約することができます。グラフィカルでのインストールの場合と同様、サイレント・インストールでも、指定された場所に RAR ファイルとその他のアダプター成果物が置かれます。ただし、サイレント・インストールでは、インストール手順を誘導するスクリプトを提供することで、インストール・プロセスを自動化することができます。

サイレント・インストールを実行する場合は、インストール設定を含むファイルを編集します。その後ファイルを実行して、アダプターをインストールします。

注: サイレント・インストールの間には、インストーラーを使用して実行したのと同じインストール・チェックが実行されます。エラーが発生すると、サイレント・インストールは終了し、該当するエラー・メッセージがコマンド行に表示されます。サイレント・インストールでは、アダプターの配置や構成は行われません。

1. ファイル `settings.txt` を開きます。

このファイルは、製品のインストーラーに付属するもので、インストーラーをダウンロードするか、またはインストーラー CD にアクセスすると入手できます。ファイルは、Installshield Options ファイル・テンプレートとも呼ばれます。

2. `settings.txt` ファイルの指示に従って操作します。

このファイルを編集してインストール場所を指定します。指示を読み、次の手順を実行します。

- a. 先頭の文字が 3 つのポンド記号 (###) である行 (1 つまたは複数) を探します。
 - b. それらの行を編集して設定を記述し、`<value>` 文字を置き換えて値を指定します。
 - c. 編集した行から ### 文字を除去します。
3. `settings.txt` ファイルを保管します。オリジナルを保存する場合は、この名前を変更する必要があります。
 4. サイレント・インストールを実行します。

コマンド行 (`settings.txt` ファイルで指示) から、次のコマンドを入力します。

```
setupwin32.exe -silent -options mysettings.txt
```

以下に、Linux システム上でサイレント・インストールを起動するコマンドの例を示します。

```
setupLinux.bin -silent -options mysettings.txt
```

関連資料

7 ページの『インストールのトラブルシューティング』

IBM WebSphere Adatper のインストール中に問題が起こった場合、さまざまなリソースを利用することができます。このリソースの中には、インストール・ログ・ファイル、エラー・メッセージや情報メッセージ、IBM Support Assistant などがあり、さらには IBM ソフトウェア・サポートに問い合わせることもできます。

WebSphere アダプターのアンインストール

WebSphere アダプターをアンインストールすると、RAR ファイルと、インストーラーによってシステム上に置かれたすべてのファイルが削除されます。アンインストールを実行しても、配置されたアダプター EAR ファイルに影響はありません。

アンインストーラーの使用法

ご使用のシステムに、アンインストールする WebSphere アダプターがあります。この場合は、グラフィカル・アンインストーラーを使用できます。WebSphere アダプターを正常にインストールしておく必要があります。アンインストーラーはアダプターと一緒にインストールされます。

1. アンインストーラーを起動します。

• Windows の場合:

- a. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」をクリックします。
- b. 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
- c. 「IBM WebSphere Adapter for <ご使用のアダプター> (IBM WebSphere Adapter for <your adapter>)」をクリックします。
- d. 「変更と削除」をクリックします。

注: また、次のように、コマンド行からアンインストーラーを起動することもできます。

```
<install location>%_uninst%uninstaller.exe
```

• UNIX® の場合は次のコマンドを入力します。

```
<install location>/_uninst/uninstaller.bin
```

2. 言語リストからアンインストーラーの言語を選択して、「了解」をクリックします。
3. アンインストールするアダプターを確認して、「次へ」をクリックします。
4. 要約情報を読んで、アダプターとアダプターのファイル・パスを確認し、「次へ」をクリックします。
5. アンインストーラーが終了したら、「終了」をクリックします。

サイレントでのアンインストール

サイレントでのアンインストールでは、グラフィカル・アンインストーラーを使用するのではなく、スクリプトを実行します。スクリプトによるアンインストールでは、複数のアダプターを除去する場合に時間を節約することができます。

アンインストールしようとするアダプターがシステムに存在しています。このとき、サイレントでアンインストールを実行します。サイレントでのアンインストールでは、スクリプトを実行します。

アダプターをアンインストールするファイルを実行します。

• Windows では、次のバッチ・ファイルを実行します。

```
<インストール場所>%_uninst %uninstaller.exe -silent
```

• UNIXでは、次のようなスクリプトを実行します。

```
<インストール場所>/_uninst /uninstaller.bin -silent
```

インストールのトラブルシューティング

IBM WebSphere Adatper のインストール中に問題が起こった場合、さまざまなリソースを利用することができます。このリソースの中には、インストール・ログ・ファイル、エラー・メッセージや情報メッセージ、IBM Support Assistant などがあり、さらには IBM ソフトウェア・サポートに問い合わせることもできます。

インストール・ログ・ファイル

インストール・ログ・ファイルには、グラフィカル・モードとサイレント・モードのどちらで操作している場合でも、インストールおよびアンインストール時に書き込まれたメッセージが収集されています。

インストール・ログ・ファイル log.txt は、以下のようなインストール・ロケーションのディレクトリー内にあります。

C:\Program Files\IBM\ResourceAdapters\FlatFiles

ファイル log.txt には、状況報告とエラーおよび情報メッセージ ID が収集されます。これらの報告書とメッセージは、累積され、タイム・スタンプが記入されます。表に示すとおり、エラー・メッセージ ID は E で終わり、情報メッセージ ID は I で終わります。

メッセージ ID

メッセージ ID	意味
CWYAS0001I	インストール = 成功
CWYAS0002E	インストール = 失敗
CWYAS0003I	アンインストール = 成功
CWYAS0004E	アンインストール = 失敗

戻りコードが 0 の場合は、操作に成功したことを意味します。ゼロ以外の戻りコードは、インストールまたはアンインストールに失敗したことを示します。

IBM Support Assistant の使用法

IBM Support Assistant では、ソフトウェアに関する疑問の解決を支援するさまざまな IBM リソースを利用できます。

IBM Support Assistant には、以下のサービスがあります。

- 統合検索インターフェース (複数のリソースを 1 回で検索) を通じた IBM サポート情報、IBM ニュースグループ、およびその他のリソースへのアクセスを改良
- IBM の教材を容易に利用可能
- 便利なリンクを通じて、IBM 製品ホーム・ページ、製品サポート・ページ、および製品フォーラムまたはニュースグループに容易にアクセス可能
- 電子的に処理を依頼し、重要なシステム・データを収集して IBM に送信することにより、解決までの PMR 時間を短縮

IBM Support Assistant V2.0 は、デスクトップ・コンピューターにインストールされる拡張可能なクライアント・アプリケーションです。IBM Support Assistant は、セ

ルフ・ヘルプ情報を提供するために他の IBM ソフトウェア製品のプラグインとして組み込むことができるフレームワークです。

このツールは、1 カ所の中央の場所でさまざまな IBM サポートの必要物を使用するために役立ちます。IBM Support Assistant は、ソフトウェアの疑問に対応するため、3 つのコンポーネントを提供しています。

- 複数のロケーションにある適切なサポート情報へのアクセスに役立つ検索コンポーネント。
- さまざまな IBM Web リソース (IBM 製品サイト、IBM サポート・サイト、および IBM ニュース・グループへのリンクなど) にアクセスするための、便利なロケーションを提供するサポート・リンク・コンポーネント。
- IBM へのキー・システム・データを含む拡張サービス要求の発信に役立つサービス・コンポーネント。

注: アダプターのインストール時に、IBM Support Assistant V2 が既にワークステーションにインストールされている場合、アダプターは自動的に IBM Software Assistant へのプラグインを配置します。

IBM Support Assistant をダウンロードするには、以下の手順を実行します。

1. インターネット・ブラウザを開きます。
2. 次のリンクにアクセスします。

<http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?rs=180&uid=swg21192593>

3. 製品サポート・ページの指示に従って、ツールをダウンロード、解凍、インストール、および使用します。

IBM Support Assistant の使用方法の詳細については、IBM Support Assistant ウィンドウの「ユーザー・ガイド」タブをクリックしてください。

アダプター・プラグインの場所

WebSphere アダプターをインストールした後、そのアダプター用の IBM Support Assistant プラグインが、次の場所に格納されます。

```
<Install directory>%adapter%\<adapter name>%ISAPugin%\com.ibm.esupport.client.SS6FE6_RA<adapter name>.zip
```

アダプター・プラグインの説明

アダプター・プラグインのインストールの説明については、次のリンクにアクセスします。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=180&uid=swg21196404>

プラグインのインストールに関する追加の説明が、IBM Support Assistant と共にインストールされているオンライン・ユーザー・ガイドで提供されています。

IBM ソフトウェア・サポートへの連絡

さまざまな方法および手段によって、WebSphere アダプターのサポートを受けることができます。

IBM ソフトウェア・サポートでは、製品の問題解決の支援をしています。IBM ソフトウェア・サポートに連絡を取るには、お客様の会社が有効な IBM ソフトウェア保守契約を結んでおり、お客様が IBM に問題を送信することを許可されている必要があります。必要なソフトウェア保守契約のタイプは、ご使用の製品タイプにより異なります。

- IBM 分散ソフトウェア・プロダクト (Windows または UNIX オペレーティング・システムで実行される Tivoli、Lotus、および Rational の製品、DB2 および WebSphere 製品などですが、これらに限定されるわけではありません) の場合、以下のいずれかの方法で、パスポート・アドバンテージに登録してください。
 - **オンライン:** Passport Advantage[®] Web ページ (www.lotus.com/services/cwepassport.nsf/wdocs/passporthome) にアクセスして、「How to Enroll」をクリックします。
 - **電話:** 国別の電話番号については、Web 上にある IBM Software Support Handbook (techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html) の連絡先ページにアクセスして、地域名をクリックします。
- IBM eServer[™] ソフトウェア・プロダクト (zSeries[®]、pSeries[®]、および iSeries[™] 環境で実行される DB2[®] および WebSphere 製品などですが、これらに限定されるわけではありません) の場合、直接、IBM 営業担当員または IBM ビジネス・パートナーと作業することにより、ソフトウェア保守契約を購入できます。eServer ソフトウェア・プロダクトのサポートについての詳細は、IBM Technical Support Advantage Web ページ (www.ibm.com/servers/eserver/techsupport.html) にアクセスしてください。

必要なソフトウェア保守契約タイプが不明な場合、米国であれば、1-800-IBMSERV (1-800-426-7378) に電話し、その他の国であれば、Web 上にある IBM Software Support Handbook (techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html) の連絡先ページにアクセスして、地域名をクリックすると、お客様の地域を担当するサポートの電話番号がわかります。

1. 問題によるビジネス・インパクトを判別します。問題を IBM へ報告する場合、重大度レベルを尋ねられます。したがって、報告する問題のビジネス・インパクトを理解して評価する必要があります。以下の表に示す基準を使用してください。

問題を報告する際の重大度の基準

重大度	説明
重大度 1	クリティカル・ビジネス・インパクト: プログラムを使用できず、その結果、運用に危機的な影響が及びます。この状態では、即時の解決が必要です。
重大度 2	重大なビジネス・インパクト: プログラムは使用できますが、非常に限定されています。
重大度 3	ある程度のビジネス・インパクト: プログラムは使用できますが、あまり重要ではない機能 (運用には重要ではない) が使用できません。

重大度	説明
重大度 4	軽微なビジネス・インパクト: 問題は運用にほとんど影響を与えないか、問題に対する適切な迂回策が取られました。

- 問題を記述し、背景情報を収集します。問題を IBM に説明する場合、可能な限り具体的に説明してください。IBM ソフトウェア・サポート・スペシャリストが、お客様の問題の解決を効果的に支援できるように、すべての関連背景情報を含めてください。時間を節約するため、以下の質問に対する答えを準備してください。
 - 問題が発生したときに実行していたソフトウェアのバージョンは何ですか。
 - 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージはありますか。IBM ソフトウェア・サポートでは、多くの場合、この情報が要求されます。
 - 問題は再現しますか。再現する場合、どのようなステップで障害が発生しますか。
 - システムを変更しましたか (例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェアなど)。
 - この問題に対して、現在、予備手段を取っていますか。取っている場合、問題を報告するときに、それについても説明できるように準備してください。
- IBM ソフトウェア・サポートへ問題の処理を依頼します。以下の 2 つの方法のいずれかで問題の処理を依頼できます。
 - オンライン:** IBM Software Support サイト (www.ibm.com/software/support/probsub.html) の「Submit and track problems」ページにアクセスします。適切な問題処理依頼ツールに情報を入力します。
 - 電話:** 国別の電話番号については、Web 上にある IBM Software Support Handbook (techsupport.services.ibm.com/guides/contacts.html) の連絡先ページにアクセスして、地域名をクリックします。

送信した問題が、ソフトウェア不良が原因であるか、資料の欠落または不正確さが原因である場合、IBM ソフトウェア・サポートでは、プログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題の詳細を記述します。

可能な場合には、APAR が解決されてフィックスが配信されるまで、IBM ソフトウェア・サポートから、お客様が実施する予備手段が提供されます。IBM では、解決された APAR を日次で IBM 製品サポート Web ページに公表しています。これにより、同一の問題が発生した他のユーザーが、同一の解決方法を利用できます。

アダプターのセットアップと配置

WebSphere Integration Developer を使用して WebSphere Adapters バージョン 6 をセットアップしてから、アダプター EAR ファイルを WebSphere Process Server for MultiPlatforms に配置します。ここでは概要を示します。アダプターに固有の手順およびアプリケーションに固有の手順の詳細については、WebSphere アダプターのユーザーズ・ガイドを参照してください。

WebSphere アダプターのセットアップとは、WebSphere アダプターを配置する前に実行する一連の作業のことです。この作業には、WebSphere Integration Developer で

のコネクター・プロジェクトのオープン、アダプターの依存関係の作成、アダプターの成果物の生成などがあります。アダプターをセットアップすると、EAR ファイルが生成されます。アダプターの配置とは、アダプターのインスタンスを実行するサーバーにこの EAR ファイルをエクスポートすることです。

WebSphere アダプターをセットアップし配置するためには、事前に以下の製品をインストールする必要があります。

- WebSphere アダプターのリソース・アダプター・アーカイブ (RAR) ファイル . Windows または Linux オペレーティング・システムのマシン上に、WebSphere Adapter バージョン 6.0 をインストールできます。(そのマシンから WebSphere アダプターの RAR ファイルを WebSphere Integration Developer がインストールされているワークステーションに転送することができます。)
- WebSphere Integration Developer V. 6
- WebSphere Process Server

WebSphere Integration Developer および WebSphere Process Server のインストールの手順については、以下を参照してください。

- WebSphere Integration Developer <http://www-306.ibm.com/software/integration/wid/>
- WebSphere Process Server <http://www.ibm.com/software/integration/wps/infocenter>

WebSphere アダプターの RAR ファイルを正常にインストールすると、それを配置する前のセットアップのために、WebSphere Integration Developer プロジェクトにインポートできるようになります。ここに示す手順は、すべての WebSphere アダプターのセットアップおよび配置のステップの概要を説明するものです。ご使用の WebSphere アダプターでは追加のステップが必要な場合があります。アダプター固有のセットアップおよび配置手順については、ご使用の WebSphere アダプターのユーザース・ガイドを参照してください。

1. WebSphere Integration Developer を起動します。詳しくは、<http://www.ibm.com/software/integration/wid/infocenter> にある資料を参照してください。
2. WebSphere Integration Developer (J2E Perspective) でコネクター・プロジェクトを作成し、「ファイル (File)」 → 「インポート (Import)」を使用して、WebSphere アダプター RAR ファイルをインポートします。

詳しくは、WebSphere Integration Developer 資料の説明を参照してください。

3. WebSphere Integration Developer を使用して、アダプターの持つ外部依存関係をインポートしたプロジェクトに追加します。

これは、ユーザーが接続しようとする (アダプター固有の) アプリケーションに対して WebSphere アダプターが持っている可能性のある依存関係です。ご使用の WebSphere アダプターのユーザース・ガイドで、このような依存関係 (存在する場合) と、それらの追加方法が説明されています。

- a. 外部依存関係を WebSphere Integration Developer プロジェクトの connectorModule にコピーし、内部ライブラリーとしてプロジェクトに追加します。

これは、エクスポートされるエンタープライズ・アプリケーション・アーカイブ (EAR) ファイルに、依存関係をバンドルするために必要です。詳しくは、WebSphere Integration Developer の資料を参照してください。

- b. 追加の具体的なステップについては、WebSphere アダプターのユーザーズ・ガイドを参照してください。
4. Business Integration Perspective で、WebSphere Integration Developer から Enterprise Metadata Discovery ツールを実行します。

これにより、EAR ファイルにエクスポートされるビジネス・インテグレーション・コンポーネントが生成されます。処理を完了するときに、アダプターを最初にセットアップするときに必要な情報すべてを入力します。Enterprise Metadata Discovery コンポーネントからの出力は、ビジネス・オブジェクト、インポート・ファイル、エクスポート・ファイルなどが格納されているビジネス・インテグレーション・モジュールに保管されます。

5. WebSphere Integration Developer を使用して、エンタープライズ・サービス・ディスカバリー・ウィザードが作成するコンポーネントの参照バインディングを生成します。

スタンドアロンのテストでは、スタンドアロンの参照を作成する必要があります。これにより外部コンポーネントは、コンポーネントへの操作を起動することができます。

6. 以下のようにして、WebSphere アダプター EAR ファイルを配置します。
 - a. WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して、プロジェクトを EAR ファイルとして WebSphere Process Server にエクスポートします。

WebSphere Integration Developer を起動し、WebSphere Integration Developer からサーバーを始動して、画面の指示に従って操作します。

- b. WebSphere Integration Developer のプロジェクトを選択し、WebSphere Integration Developer で構成されているサーバーに配置します。

WebSphere Integration Developer を起動し、画面の指示に従って操作します。

アダプターをセットアップおよび配置した後は、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用して、アダプターのプロパティに必要な変更を加えることができます。また、WebSphere Integration Developer のインポート・ファイルとエクスポート・ファイルを編集し、それからアダプターを再配置することもできます。

ユーザー補助

インストーラーおよびセットアップ・ランチパッドは、IBM Java™ Accessibility チェックリストで概要が示されている支援テクノロジー機能をサポートします。

インストーラーとランチパッドは、キーボードからアクセスすることができ、IBM Java Accessibility Checklist をサポートします。キーボードのショートカットにより、マウスを使用しなくてもグラフィカル・ユーザー・インターフェースのコンポーネントをナビゲートおよび選択することができます。詳細については、IBM Java Accessibility Web サイトを参照してください。

すべてのオペレーティング・システムのキーボード・ユーザー補助機能が維持されています。キーボードのショートカットは次のとおりです。

- **Tab** キーを使用してグラフィカル・コンポーネント間をナビゲートする。
- **スペース・バー**または **Enter** キーを使用してコンポーネント内のボタンを選択し、必要に応じて **Enter** を使用して選択する。
- インストールまたはアンインストール操作を取り消す場合は、「**キャンセル**」キーまでタブで移動してから、**Alt + C** を使用するか、**Enter** キーを使用する。

インストーラーを使用する際には、**スペース・バー**を使用して (ラジオ・ボタンを選択することにより) 使用許諾契約に同意し、それから **Enter** キーを使用して次の画面に進むことができます。

支援テクノロジーには、次に示す特長があります。

- **フォーカス** 支援テクノロジー・リーダーは、フォーカス内のオブジェクトを読み取ります。インストーラーとランチパッドは、強調表示オブジェクトや可視カーソルと移動など、ビジュアル・インディケーターを備えるのが特徴です (ラジオ・ボタン選択)。
- **表示色** 状況や情報を表示する際に色は使用しません。
- **コントラスト** インストーラーとランチパッドは、システムのコントラスト設定を継承します。システムのコントラスト設定は選択可能です。
- **システム設定のサポート** すべてのユーザー・インターフェース・コントロール類のサイズ、フォント、および色の設定は、オペレーティング・システムから継承されます。
- **非アニメーション表示モード** インストーラーは、インストールとアンインストールの進行表示の場合にのみ、アニメーション機能を取り込みます。支援テクノロジー・リーダーは、インストールとアンインストールの操作について知らせ、それらのプロセスの進行状況を完了したパーセントとして読み取ります。
- **コントロール、オブジェクト、およびアイコンのラベル** すべてのインストーラーとランチパッドのコンポーネントには名前が付いており、それぞれについての説明があります。アイコンは使用されません。ラベルはコンポーネントと関連付けられており、支援テクノロジー・リーダーにより検出され、読み取られます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
577 Airport Blvd., Suite 800
Burlingame, CA 94010
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
IBM ロゴ
AIX
AIX 5L
CICS
CrossWorlds
DB2
DB2 Universal Database
HelpNow
i5/OS
IMS
Informix
iSeriesLotus
Lotus Domino
Lotus Notes
MQIntegrator
MQSeries
MVS
OS/400
Passport Advantage
pSeries
Redbooks
SupportPac
WebSphere
z/OS

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel(ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Pentium、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、および Itanium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。



WebSphere Adapters バージョン 6.0

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストーラー (グラフィカル) 6
インストーラーの起動 3
インストーラーの始動 3
インストール後タスク 11
インストール・ログ・ファイル 7
エクスポート、EAR ファイルの 12
エラー・メッセージ 7
エンタープライズ・アプリケーション・アーカイブ
EAR 12
エンタープライズ・サービス・ディスカバリー 12

[カ行]

キーボード・ショートカット 13
キーボード・ユーザー補助機能 13
拒否、ご使用条件の 4
拒否、使用条件の 4
言語 2
ご使用条件 4

[サ行]

サイレントでの アンインストール 6
支援テクノロジー 機能 13
実行可能ファイル (プラットフォーム別) 3
スクリプトを使用した (サイレント) アンインストール 6
スクリプト・ベースのアンインストール 6
設定ファイル 5
セットアップ、WebSphere アダプターの 11
セットアップ・ランチパッド 2

[タ行]

ダウンロード、IBM Support Assistant の 7
トラブルシューティングの重大度 9
トラブルシューティング用メッセージ ID 7

[ハ行]

配置、WebSphere アダプターの 11
パスポート・アドバンテージ -- 登録 9
プログラム診断依頼書 (APAR) 10

[マ行]

メッセージ ID 7
戻りコード 7

[ラ行]

ランチパッド 2
リソース・アダプター・アーカイブ 1, 11
ロケール 2

D

DB2 9

E

Enterprise Metadata Discovery 12

I

IBM Java Accessibility Checklist 13
IBM Support Assistant 7
IBM ソフトウェア・サポート 9
Installshield Options ファイル・テンプレート 5

K

Konquerer 2

L

Linux 1, 5
log.txt ファイル 7
Lotus 9

M

Mozilla 2

N

Netscape 2

R

RAR 1, 11
Rational 9

S

settings.txt (サイレント・インストール用スクリプト・ファイル) 5

T

Tivoli 9

W

WebSphere Integration Developer 1, 11

WebSphere Process Server 11

WebSphere Process Server 管理コンソール 12

WebSphere アダプター・プラグイン、IBM Support Assistant の
8

Windows 2000 1

Windows 2003 1



Printed in Japan